

大隅鹿屋病院

病院の概要

所在地 〒893-0015 鹿屋市新川町6081-1
開設者 東上 震一
開設年月日 昭和63年
病院長 中山 義博
病床数 391床
診療科目 内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・リウマチ科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・泌尿器科・肛門科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・歯科口腔外科
医師数 35名
指導医数 16名
1日平均外来患者数 250名
1日平均入院患者数 334.3名



臨床研修プログラムの目的と特徴

このプログラムは、基本的な診療能力を体得すると共に、高齢化が急速に進む大隅半島において、地域包括ケアの視点から全人的ケアが出来る医師として人格形成を目指す。以下の3点を重視した研修を行います。

1. 地域の最後の砦として何でも診る
救命救急センターや大病院への搬送は救急車を使っても2時間近くかかるため、まずは当院で診ることが非常に重要です。「当院で断ったら次に搬送する先がない」という地域における自院の役割を認識し、専門に関わらず「まずは診てみる」というマインドが2年間で自然に身についていきます。
2. 入り口から出口まで一貫して一人の患者を診る
都会の大病院ほど救急症例、入院症例が多くはない環境を利用して、研修医が受け持った救急症例が入院となる際には、入院後も担当医として診療に関わる体制を取っています。また、内科研修においては退院後のフォローアップも研修医が担当することにより、急性期から慢性期まで一人の患者の経過を診ることが可能です。昨今の平均在院日数が短くなっている状況において、糖尿病やCOPDなど長期のフォローが重要な疾患についても研修を行うことを目指しております。
3. 研修医も大切なチーム医療の一員である
病院全体の医師数が決って多くはないため、研修医は学習者としての存在であると同時に大切なチーム医療の一員です。地域医療の最後の砦となる病院において、医療チームの重要なメンバーという自覚を持つことはプロフェッショナリズム醸成に大きく寄与しております。

臨床研修スケジュール

【プログラム例】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内科				循環器内科		外科		外科選択	救急・麻酔		
	救急											
2年次	産婦人科	小児科	地域医療		精神科		選択科					

〔現在、厚生労働省に申請中〕

研修協力病院・研修協力施設

研修協力病院 鹿屋医療センター、福岡徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、宮崎大学医学部付属病院、島根大学付属病院、札幌徳洲会病院、鹿児島徳洲会病院、中部徳洲会病院、南部徳洲会病院、県南病院、松原徳洲会病院

研修協力施設 徳田脳神経外科病院、札幌南徳洲会病院、笠井病院、皆野病院、庄内余目病院、白根徳洲会病院、名瀬徳洲会病院、帯広徳洲会病院、日高徳洲会病院、新庄徳洲会病院、山北徳洲会病院、宇和島徳洲会病院、屋久島徳洲会病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、沖永良部徳洲会病院、与論徳洲会病院、石垣島徳洲会病院、宮古島徳洲会病院、山川病院、共愛会病院

新専門医研修プログラム

日本内科学会（大隅鹿屋病院内科専門研修プログラム） 日本外科学会（大隅鹿屋病院外科専門研修プログラム）
日本総合診療学会（大隅鹿屋病院総合診療専門プログラム）

病院のアピールポイント

★研修医より

○自己紹介

私は宮崎県都城で生まれ、中学、高校、大学の12年間は鹿児島市で育ちました。現在は鹿屋市の大隅鹿屋病院で初期研修医として日々研鑽を積んでいます。

○どうしてこの病院を選んだか

私達が医師になる時、2025年問題が、2030年には「多死社会」が、2040年には「医師余り」が来ると言われています。一方で病院の6割が赤字で地方の医療は逼迫しているという報道もあります。そんな激動の時代を生き残るためには「スペシャリスト」か「ジェネラリスト」を極めるしかありません。特に鹿児島県は離島を多数持ち「ジェネラリスト」が求められます。離島医療に徳洲会は必要不可欠だと思い、鹿児島で医師をする以上、徳洲会の働き方、理念、経営方針などを学びたいと思いました。特に、1次～3次まで、診断～在宅医療まで学べる大隅鹿屋病院に魅力を感じ選びました。

○医学生さんへ一言

研修病院探しは、C B Tと臨床実習の合間を縫って、卒試と国試の不安を抱えつつ、よく分からない初期研修の2年間を決めるのですから大変だと思います。忘れないでほしいのが「自分はどんな医者になりたい」です。自分の人生をしっかりと考えるいい機会ですし、とことん考えましょう。医学生の残り期間頑張ってください。

○今後の医師としての豊富

上で偉そうな講釈垂れておきながら、実は何科になるかぼんやりとしか考えていません。少なくとももとの科になつていようと「どんな疾患も最低限は診れる」と「死ぬまで現役」を目標に将来の自分が困らないように目の前の日々のタスクをこなしつつ成長したいです。



シマ ユキ 祐貴

★病院長より

当院は、陸の孤島とも呼ばれる鹿児島県大隅半島の中心部にある病院です。田舎ではありますが、陸の孤島である為に、患者を安易に搬送する事が出来ず、中核病院としてレベルの高い医療を求められています。

各診療科の指導医はその期待に答えるべく一般診療は勿論、高度先進医療や学会活動などにも積極的に取り組んでいます。

さらに、全国から講師を招き、院内講演会の開催を行ったり、各地で行われる医療セミナーにも参加させ、研修医を育てるための支援を積極的に行っています。



ナカヤマ ヨシノリ 義博 病院長



初期研修医処遇

身 分	常勤	加入保険	社会保険、厚生年金保険、雇用保険、労災、医師賠償責任保険
基本 給	1年次	308,000 円	当直手当
	2年次	329,000 円	1年次 25,000 円×5回程度、2年次 30,000 円×5回程度 ～15,000 円（上限）
賞 与	1年次	年2回（410,000 円）	通勤手当
	2年次	年2回（658,000 円）	50,000 円（上限）で半額負担 随（住宅）手当 扶養手当、残業手当（最低 40,000 円～）
出 張	学会参加交通費、宿泊費、参加費負担	その他	学会年会費年1 学会病院負担、学会発表は何回でも無制限で病院負担
休 暇	有給休暇（10 日）、リフレッシュ休暇4 日、年末年始（4 日）		

募集要項

募集定員 5名
応募資格 今年度医師国家試験受験者（その他相談可）
応募締切 令和7年10月9日
試験日程 随時
試験内容 面接のみ

応募連絡先

所在地 鹿児島県鹿屋市新川町6081-1
担当部署 臨床研修センター
電 話 0994-40-1111
F A X 0994-41-8355
E-mail kanoya-ikyoku@kanoya-aishinkai.com
U R L http://www.kanoya-aishinkai.com/

交通案内

